



TITLE:

<教室通信>就職・採用活動時期の変更

AUTHOR(S):

和田, 修己

CITATION:

和田, 修己. <教室通信>就職・採用活動時期の変更. Cue 2015, 33: 63-63

ISSUE DATE:

2015-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/197257>

RIGHT:

教室通信

就職・採用活動時期の変更

電気工学専攻長 和田 修 己

新聞やマスコミでも取り上げられましたのでご承知の方もおられるかと思いますが、平成27年度に卒業・修了（平成28年3月卒業・修了）予定の学生諸君から、就職活動の時期が大きく変更されることになりました。京都大学としては、学生支援センターキャリアサポートルームからも公式の情報として就職活動スケジュールの変更が図入りで説明されています（http://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/career/misc/job_hunting/）。従来、平成26年度までは、企業からの就職情報を伝える広報活動は前年度の12月1日に解禁となり、4月1日から採用のための選考が開始されてきました。この卒業・修了の前年度からの就職活動（いわゆる「就活」）が大学での勉強・研究活動の妨げになる、ということで、平成27年度より「広報活動解禁・3月1日、採用選考活動解禁・8月1日」に変更されます。なお、正式内定・10月1日以降は変更されません。

今回の時期変更は、昨今の過熱気味の早期からの就活を改める意味で良い改革になればと期待されるものですが、いくつか懸念する点も有り、またOBの皆様をお願いさせていただきたい点もございます。

国立大学協会も構成団体の一つである「就職問題懇談会」から、就職・採用活動の秩序を維持するとともに、正常な学校教育と学生の学修環境を確保することの重要性を踏まえ「大学、短期大学および高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について（申合せ）」http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/09/1340139.htm（平成25年9月27日）が出され、また個々人の個性や適性に応じた職業を学生自ら選択できる能力の育成や学修意欲を高めるため、初年次からのキャリア教育・職業教育の充実を図ることを目指し「企業等の協力を得て取り組むキャリア教育としての学内行事に関する申合せ」http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/09/1351973.htm（平成26年9月16日）が出されています。京都大学電気系でもこれに準拠し、企業等、関係各位にご協力をお願いすると共に、専攻構成員にも遵守するようお願いしております。

今回の変更に伴う懸念点の1つは、卒論・修論への影響です。従来は4月には学校推薦を出して採用選考が開始され、早い学生で4月中に就職先が内々定しており、多くの学生が6月頃までに就職先が決定しています。これが採用選考8月開始となると、10月にずれ込むことも考えられ、卒論・修士論文に向けた研究の時間が十分とれるのか心配なところです。修士1回生諸君には、M1の間に研究をしっかりと進めておくように指導はしましたが、はたしてどのくらい進んでいるか不安も残ります。懸念点の第2は、8月の大学院入試への影響です。これは逆に、修士課程の学生諸君が博士後期課程進学をより積極的に考えてくれれば、利点ともなるかと思えます。第3の懸念点は、3月・8－9月の学会参加・発表への影響です。しっかり研究が進んでいる学生諸君には、就職活動時期の変更の影響は小さいと思われますが、「就活」重視の学生諸君には研究発表の機会を無くすことにもなりかねません。研究成果をしっかり学会発表して、専門性を深め経験を高めて就職することを期待します。

昨年から今年にかけ、多くの企業の方と面談させていただき、今回の就職活動時期の変更を良い方向に向けることができるよう、お願いをさせていただきました。特に、就活の長期化を避けるという本来の目的から、3・4月と7・8月の春・夏休暇期間を活用した重点的な求人・情報交換・採用活動をお願いし、学部4回生・修士2回生の前期が就活だけで終わることの無いように心がけたいと学生にも伝えております。

考えてみれば、筆者が学生の時代には7・8月の夏休みに企業訪問を行うのが普通でしたので、昔に戻ただけと云えるのかもしれませんが、今回の変更は大学側にとっても企業の皆様にも若干不安の残る変更になります。当初の精神に立ち戻って、皆様のご協力ですムーズな移行ができればよいなと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。